

学校教育目標

かしこく やさしく たくましい 浜宮の子

校訓 —希望 誠実 健康—

教師の願い

本校には、「—希望 誠実 健康—」という校訓がある。これは、開校以来 33 年間、諸先輩方は、この校訓をもとに信念をもって教育に携わってきた。

本年度は、この校訓を受けて「かしこく やさしく たくましい 浜宮の子」という教育目標を設定した。

私たち教職員は、浜宮小学校の子どもたちが、輝かしい未来への希望をいだき、思いやりの心をもって心身ともに健康で明るい子供に育ててほしいと願っている。

今の時代は、変化が大きく、あらゆることが次から次へと押し寄せてくる、まさにスピード時代である。このような社会においては、自分で課題を見つけ、判断し、追求する子、思いやりと勇気をもって行動できる子、健康な体と心をもつ子を育てる必要があると考える。本校が目指す児童は、学校教育目標にも設定したとおり、かしこい子（知）、やさしい子（徳）、たくましい子（体）であり、このような子どもを育てることが私たち浜宮小学校の教職員の使命である。

めざす子ども像

かしこい子（知）

- ・自ら考え判断し行動する子
- ・自らの考えをことばで表現する子

やさしい子（徳）

- ・素直な気持ちで接する子
- ・思いやりと勇気をもって行動する子

たくましい子（体）

- ・健康な体と豊かな心をもつ子
- ・友達と協力し合い、粘り強く取り組む子
- ・命を大切にする子

めざす教師像

教師は、プロである。知的好奇心をゆさぶる授業、考えを深める授業、達成感のある授業を目指す。

楽しい先生、優しい先生だけでなく、叱るときは叱れる先生でありたい。

子どもには、いろいろな良さがある。この良さを発見する場、磨く場、認め合う場がある温かい学級集団でありたい。

子どもの目線に立つためには、子どもをよく見つめることが必要である。見つめるとは、眺める

→見る→よく見る→見続ける→見抜くことである。ただ言動だけで子どもを判断するのではない。その言動の裏にはどんな思いが込められているのかを見抜く教師でありたい。

子どもをよく見るコツは二つある。一つ目は、一人一人の子どもが何をしていたのか、どう考えていたのかを観察し把握すること。二つ目は、子どもがどう変容したのか、時系列で捉えることである。

「いくらまわされても 針は 天極をさす」高村光太郎の言葉である。私たち教師にとっての天極は子ども。時間におわれ忙しい日々であるが、雑事、雑念にとらわれず、どんなときも目の前の子どもを見失うことなく取り組む教師でありたい。

わかる授業づくり

- 目標・課題を明確にする
- 考える時間を確保する
- 対話のある授業をする
- 振り返りを大事にする

明るく楽しい学級づくり

- 一人ひとりを大切にする
- 思いやりの心を育てる
- 子ども理解に努める

健康な体と心づくり

- 粘り強く取り組む
- 命を大切にする
- 協力して取り組む

重点目標

- 1 学習規律や基本的な生活習慣を身に着けさせるための指導を徹底する。
- 2 学習過程を明確にし、筋道をたてた学び方を身に着けさせる。
- 3 人とつながりながら学ぶ場づくりに努める。
- 4 体育授業やクラブ活動、外遊びの奨励により体力向上に努める。
- 5 児童が主体的に活動する場づくりに努める。
- 6 防災・防犯、安全教育を充実させる。
- 7 教育活動を保護者、地域に周知し学校との連携を図る。